

学期	項目 (◎ 学習課題)	目標	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度
	第4章 近世 武家政権の展開と世界の動き(計17時間) ■章の問い■ 全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか。	(1)次のような知識を身につけることができる。 （ア）世界の動きと統一事業、（イ）江戸幕府の成立と対外関係、（ウ）産業の発達と町人文化、（エ）幕府の政治の展開 (2)次のような思考力、判断力、表現力などを身につけることができる。 （ア）交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、(1)の（ア）から（エ）までについて近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現できる。 （イ）近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現できる。	①ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などをもとに、近世社会の基礎がつくられたことを理解している。 ①江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などをもとに、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 ①産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどをもとに、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。 ①社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどをもとに、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。 ②交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ②近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③近世の日本について、よりよい社会の実現を視野に「全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか」という「章の問い」を主体的に追究しようとしている。
	第1節 大航海によって結びつく世界(計3時間) ◇節の問い◇ ヨーロッパの国々による世界進出は、各地の生活や文化にどのような影響を与えたのだろうか。	(1)ポルトガルやスペインによる新航路の開拓や宗教改革によるキリスト教世界の動きに伴って、鉄砲やキリスト教が伝来して南蛮貿易が盛んになり、それらが日本の社会に影響を及ぼし、近世社会の基礎がつくられたことを理解できる。 (2)新航路開拓の背景となるアジアの交易の状況や、イスラム商人などの役割と世界の結びつきについて理解できる。	①十字軍の遠征を通じたイスラム勢力との交流や、それに伴うローマ教皇の権威の衰えが近代ヨーロッパ世界の形成を促したこと、新航路の開拓とヨーロッパの人々の進出により世界の一体化が始まったことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②ヨーロッパの人々による交易の広がりとその影響に着目して、ヨーロッパ諸国が世界各地に進出するなかで世界の交易の空間的な広がりが生み出され、それを背景として日本とヨーロッパ諸国の接触が起こったことや、日本の政治や文化に与えた影響などを、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ヨーロッパ人来航の影響とその背景について、「章の問い」と関連づけながら「ヨーロッパの国々による世界進出は、各地の生活や文化にどのような影響を与えたのだろうか」という「節の問い」を主体的に追究しようとしている。

2 年 1 学期	章の導入 ■章の問い■ 全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか。	(1)これから学習する近世（安土桃山時代・江戸時代）がどのような時代であったのか、小学校で学んだ人物・出来事を振り返りながら、周りの生徒との対話を通じて自分なりの予想を立てることができる。	①小学校での学習などをもとに、近世に該当する時代を把握し、小学校で学習した歴史上の人物や出来事を想起できている。 ②前の章での学習などをもとに、近世では前の時代からどのように社会が変化するか予想し、表現している。 ③「全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか」という「章の問い」に対する学習の見通しを立て、学習を通して近世の特色を明らかにしようとしている。
2 年 1 学期	1 ヨーロッパの変革 ◎ヨーロッパの文化や社会は、イスラム商人との交流によってどのように変化したのだろうか。	(1)イスラム文化の影響を受け、近代ヨーロッパ世界が形成されたことを理解できる。 (2)ヨーロッパで、ルネサンスと宗教改革が起こった背景とその影響を考察し、表現できる。	①十字軍の遠征を通じたヨーロッパとイスラム圏の接触により、イスラムの学問や技術などが伝わり、ヨーロッパに変革が起きたことを、さまざまな資料を適切に読み取り、理解している。 ②本時の学習課題について、ヨーロッパでルネサンスや宗教革命が起こった背景を、十字軍の失敗によるローマ教皇の権威の失墜とイスラム文化の伝播との関連から考察し、適切に表現している。 ③中世の価値観の変化がヨーロッパの社会に与えた影響について関心を高めている。
2 年 1 学期	2 大航海時代の幕開け ◎ヨーロッパの人々の進出によって、世界はどのように変化したのだろうか。	(1)ヨーロッパの人々が、新航路の開拓を行った目的を理解できる。 (2)新航路の開拓により、ヨーロッパの人々が貿易や布教のために世界各地に進出したことで、世界の一体化が始まったことを考察できる。	①コロンブス、バスコ＝ダ＝ガマ、マゼランが開拓した航路と、新航路の開拓を行った目的を理解している。 ①アメリカ大陸の古代文明の特色と、ヨーロッパの人々が先住民の社会に与えた影響について理解している。 ②本時の学習課題について、キリスト教の布教や貿易、植民地化の進出ルートや広がりについて調べ、新航路の開拓がアフリカやアメリカ、アジアにもたらした影響について資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③ヨーロッパの人々によってアメリカ大陸にもちこまれた伝染病について、そこでみられる課題に対して関心を高めている。
2 年 1 学期	3 東アジアの貿易と南蛮人 ◎ヨーロッパの国々による世界進出によって、日本の生活や文化はどのような影響を受けたのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ ヨーロッパの国々による世界進出は、各地の生活や文化にどのような影響を与えたのだろうか。	(1)南蛮貿易の特色を理解し、鉄砲の伝来が日本の社会に与えた影響を理解できる。 (2)日本にキリスト教が伝わった背景と、国内にキリスト教が広まった理由を考察できる。	①南蛮貿易の主な貿易品や日本に与えた影響と、ヨーロッパ船の来航地や来航目的を理解している。 ②本時の学習課題について、南蛮人の来航による鉄砲やキリスト教の伝来に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
第2節 戦乱から全国統一へ（計3時間） ◇節の問い◇ 全国統一が進むなかで、社会はどのように変化したのだろうか。		(1)織田信長が行った仏教勢力への圧迫や関所の撤廃、豊臣秀吉が行った検地・刀狩などの政策によって、中世の大きな勢力が力を失ったことや、中世までとは異なる社会が生まれていったことなどの大きな変化に気づくことができる。 (2)南蛮文化が取り入れられる一方、生活に根ざした文化が広がり、武将や豪商の気風や経済力を背景とした豪華絢爛な文化が生まみ出されたことを理解できる。	①信長・秀吉による統一事業とその当時の対外関係、戦国大名や豪商などの生活・文化の特色などの知識をもとに、中世社会の荘園制の崩壊と仏教勢力の衰退により、近世社会の基礎がつくられたことを理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②統一政権の諸政策の目的に着目して、中世社会から近世社会への変化が生み出され、日本の政治や文化に与えた影響などを、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③信長・秀吉による統一事業や桃山文化について、「章の問い」と関連づけながら「全国統一が進むなかで、社会はどのように変化したのだろうか」という「節の問い」を主体的に追究しようとしている。

2 年 1 学期	タイムトラベル⑦ 安土桃山時代を眺めてみよう 16世紀ごろのある場面	(1)安土桃山時代のまちづくりが行われている様子を描いた想像図を見て、室町時代と比べて、どのような点が変化したのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定できる。	①小学校の学習を踏まえて、「タイムトラベル」の想像図から、安土桃山時代の築城の様子や、検地、刀狩の様子などを読み取っている。 ②室町時代と安土桃山時代の違いに着目し、「タイムトラベル」の想像図に描かれている事象を相互に関連づけるなどして、時代の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③「タイムトラベル」の想像図から、安土桃山時代の特色を明らかにするための課題を見だし、「問い」を立てて主体的に追究しようとしている。
2 年 1 学期	1 信長・秀吉による全国統一 ◎戦国大名は、どのようにして全国統一を進めたのだろうか。	(1)信長・秀吉の統一事業により、中世社会の勢力が力を失い、近世社会の到来が促されたことを理解できる。 (2)信長の諸政策の特色を理解し、それぞれの政策のねらいを考察できる。	①戦国時代はどのようにして終わったのか、織田信長と豊臣秀吉が全国統一を果たしていった経緯をもとに理解している。 ②本時の学習課題について、主に信長の政策に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
2 年 1 学期	2 秀吉が導いた近世社会 ◎秀吉は、国内と海外に対してどのような政策を行ったのだろうか。	(1)秀吉の諸政策が中世的な土地制度を解体し、検地に基づく直接的な土地支配を確立したことを理解できる。 (2)秀吉の対外政策の特色を、海外貿易の許容とキリスト教の禁止との矛盾、文禄・慶長の役の失敗から考察できる。	①検地と刀狩によって中世までとは異なる社会がつけられたことを、兵農分離に着目して理解している。 ①文禄・慶長の役が豊臣氏の支配が弱まる原因になったことを理解している。 ②本時の学習課題について、検地や刀狩、文禄・慶長の役に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
2 年 1 学期	3 戦国大名と豪商が担った桃山文化 ◎安土桃山時代には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 全国統一が進むなかで、社会はどのように変化したのだろうか。	(1)戦国大名や豪商の経済力を背景に、戦国時代末期から安土桃山時代にかけて、豪壮な文化が生まれたことを理解できる。 (2)南蛮貿易によって西洋の文化がもたらされるとともに、庶民の間にも芸能や娯楽が広まっていったことを理解できる。	①桃山文化の特色を、戦国大名や豪商の豊かな経済力と南蛮貿易の影響に着目して理解している。 ②本時の学習課題について、中世の文化と桃山文化との違いに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③よりよい社会の実現を視野に、築城による森林伐採や朝鮮半島から伝わった文化について、そこで見られる課題に対して関心を高めている。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
第3節 武士による全国支配の完成(計4時間) ◇節の問い◇ 江戸幕府はどのようにして全国を支配したのだろうか。		(1)江戸幕府の支配の下、大きな戦乱のない時期を迎えたことなど、中世から近世への転換の様子を、中世の武家政治との違いに着目して考察し、自分の言葉で表現できる。 (2)江戸幕府の成立と幕藩体制について、幕府が大名を統制するとともに、その領内の政治の責任を大名に負わせたことで、全国の土地と人々を支配するしくみが確立していったことを理解できる。	①江戸幕府の成立と大名統制や、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係をもとに、幕府と藩による支配が確立したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②統一政権の諸政策の目的に着目し、江戸幕府によって全国を支配するしくみがつけられ、安定した社会が構築されたことなどを、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③江戸幕府の成立と対外関係について、「章の問い」と関連づけながら「江戸幕府はどのようにして全国を支配したのだろうか」という「節の問い」を主体的に追究しようとしている。

2 年 1 学期	1 幕藩体制の始まり ◎江戸幕府は大名や朝廷を統制するために、どのようなしくみをつくったのだろうか。	(1)江戸幕府が開かれた経緯と幕藩体制のしくみや大名・朝廷の統制のしくみを理解し、それらをつくった徳川氏の共通のねらいについて多面的に考察できる。 (2)幕府が、大名や朝廷を統制するためにどのような制度や法令を整備したか理解できる。	①大名の配置、武家諸法度の制定、参勤交代の制度のそれぞれのねらいを理解している。 ②本時の学習課題について、幕府の軍事力や経済力に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
2 年 1 学期	2 朱印船貿易から貿易統制へ ◎幕府は、盛んになっていた貿易やキリスト教の布教に、どのように対処していったのだろうか。	(1)幕府は、当初、大名や豪商などに朱印状を与えて積極的に貿易を進めていたことを理解できる。 (2)幕府の政策が、貿易の推進から統制に変化した理由を、キリスト教との関わりから考察できる。	①キリスト教と貿易への対応について、信長・秀吉・家康の違いを効果的にまとめさせ、貿易の統制と禁教に移行していったことを理解している。 ②本時の学習課題について、貿易とキリスト教徒との関係に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
2 年 1 学期	3 四つに絞られた貿易の窓口 ◎幕府は、貿易についてどこを窓口とし、どのように関わっていったのだろうか。	(1)幕府は、長崎、対馬、薩摩、松前の四つの窓口を通して、外国との交易を行っていたことを理解できる。 (2)幕府が世界とつながる窓口を限定した理由を考察し、表現できる。	①貿易の四つの窓口が、それぞれ、オランダと清、朝鮮、琉球、蝦夷地への窓口となり、貿易を行っていたことを理解している。 ②本時の学習課題について、四つの窓口が果たした役割に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③よりよい社会の実現を視野に、日本と朝鮮をつないだ倭館について、関心を高めている。
2 年 1 学期	4 琉球王国とアイヌ民族への支配 ◎琉球王国とアイヌ民族は、薩摩藩や松前藩とどのような関係にあったのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 江戸幕府はどのようにして全国を支配したのだろうか。	(1)琉球王国は薩摩藩の支配を受けながら、一方で中国に朝貢し貿易を行っていたことを理解できる。 (2)アイヌ民族が松前藩と対立した理由を考察し、表現できる。	①琉球王国と薩摩藩、アイヌ民族と松前藩の交易の特色を理解している。 ②本時の学習課題について、中国との関係や琉球王国、アイヌ民族との交易に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
第4節 天下泰平の世の中(計4時間) ◇節の問い◇ なぜ江戸時代に産業や経済が発達したのだろうか。		(1)身分制の下で、人々はそれぞれの身分のなかで職分を果たしたこと、農村が幕府や藩の経済を支えていたことなどを理解できる。 (2)農林水産業や手工業、商業などの産業や経済の発達に、河川・海上交通、街道の整備が果たした役割について考察できる。 (3)藩校や寺子屋などの普及に着目して、人々の教育への関心の高まりに気づくとともに、学問・芸術・芸能などの地域的な広まりに着目して、文化の社会的な基盤が拡大したことを理解できる。 (4)近世の文化について、大阪・京都・江戸などの都市を舞台に、経済力を高めた町人を担い手とする文化が形成されたことなどを理解できる。	①身分制と農村の様子、産業や交通の発達、文化の広がりをもとに、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解するとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②産業の発達と文化の担い手の変化に着目し、都市を中心とした経済が形成されていくなかで、日本の文化の空間的な広がりが生み出され、それを背景として各地方の生活文化が生まれたことや、生産技術の向上や交通の整備と町人文化の特徴などを、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③身分制と農村の様子、産業や交通の発達、元禄文化について、「章の問い」と関連づけながら「なぜ江戸時代に産業や経済が発達したのだろうか」という「節の問い」を主体的に追究しようとしている。
2 年 1 学期	タイムトラベル⑧ 江戸時代を眺めてみよう 17～18世紀ごろのある場面	(1)江戸時代のある街道沿いの農村の様子を描いた想像図を見て、安土桃山時代と比べて、どのような点が変化し、どのような共通点があったのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定できる。	①小学校の学習を踏まえて、「タイムトラベル」の想像図から、江戸時代の街道の様子や農業の様子などを読み取っている。 ②安土桃山時代と江戸時代の人・もの・事柄に関わる変化と継続を視点に、「タイムトラベル」の想像図に描かれている事象を相互に関連づけるなどして、時代の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③「タイムトラベル」の想像図から、江戸時代の特色を明らかにするための課題を見だし、「問い」を立てて主体的に追究しようとしている。

2 年 1 学期	1 身分制の下での暮らし ◎江戸時代の身分制とは、どのようなしくみなのだろうか。	(1)江戸時代の人口構成の特色と身分制のしくみを理解できる。 (2)幕藩体制の確立後、幕府が文治政治へ転換し、朱子学を重視した理由を考えることができる。	①武士と百姓・町人の身分を区別するしくみを理解し、年貢を納入させるために、どのようなしくみがとられていたかを理解している。 ①徳川綱吉が朱子学を重視した理由を、学問や礼節を重んじる文治政治との関係から理解している。 ②本時の学習課題について、武士、百姓・町人の役割に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③差別された人々について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対して関心を高めている。
2 年 1 学期	2 安定する社会と諸産業の発達 ◎江戸時代の国内産業は、どのように発達していったのだろうか。	(1)江戸時代には、新田開発や農具の発達、肥料の工夫などにより米の収穫量が増えたことを理解できる。 (2)各地で商品作物の栽培や特産物の生産が盛んになり、国内産業が発達した理由を考えることができる。	①幕府や藩、農民が米の生産量を増やすために行ったことを、適切に読み取り、理解している。 ②本時の学習課題について、特産品の生産や漁業・鉱業・林業の発達に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③利根川のつけ替え工事や森林伐採と植林について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対して関心を高めている。
2 年 1 学期	3 各地を結ぶ陸の道・海の道 ◎交通網の整備は、産業や経済の発達にどのような影響を与えたのだろうか。	(1)江戸時代には、五街道や西廻り航路・東廻り航路などの交通網が整備されたことを理解できる。 (2)交通網の整備が、都市や産業にどのような影響を与えたかを考えることができる。	①江戸時代の主な街道と航路の名称とルート、三都のそれぞれの特色を理解している。 ②本時の学習課題について、大阪の発展に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
2 年 1 学期	4 上方で栄えた町人の元禄文化 ◎江戸時代前半には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ なぜ江戸時代に産業や経済が発達したのだろうか。	(1)文学や装飾画などの多彩な分野で、上方を中心に町人文化が栄えたことを理解できる。 (2)上方の町人階層から新たな文化が形成された背景を、当時の上方の経済的な地位から考えることができる。	①江戸時代前半に上方を中心に広がった町人文化の特色を、それぞれ表などで適切にまとめ、理解している。 ②本時の学習課題について、上方の町人が文化の担い手になったことに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③日本人がつくった最初の暦について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対して関心を高めている。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
第5節 社会の変化と幕府の対策(計3時間) ◇節の問い◇ なぜ幕府はさまざまな改革を行ったのだろうか。		(1)貨幣経済の農村への広がりや自然災害などによる都市や農村の変化などを踏まえ、近世社会の基礎が動揺していったことを理解できる。 (2)財政の悪化などを背景とした幕府の政治改革には、百姓一揆の発生につながった農村の変化や、商業の発達などへの対応という側面もあったことに気づくことができる。 (3)蘭学や国学などの学問の分野に、新しい時代を切り開く動きがみられたことを理解できる。	①商品作物と貨幣経済の広まりに伴う経済格差の発生と民衆の動き、幕府の改革、新しい学問・思想の動きなどをもとに、幕府の政治がしだいに行き詰まりをみせたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②社会の変化と幕府の政策の変化に着目し、貨幣経済が農村に広がるなかで経済的な格差が生み出され、それを背景として百姓一揆が起こったことや、社会や経済の変化への対応としての諸改革の展開などを、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③幕府の政治改革、新しい学問・思想の動き、化政文化について、「章の問い」と関連づけながら「なぜ幕府はさまざまな改革を行ったのだろうか」という「節の問い」を主体的に追究しようとしている。

2 年 2 学期	1 貨幣経済の広まり ◎徳川吉宗はどのような改革を行ったのだろうか。	(1)徳川吉宗の享保の改革の特色を理解するとともに、米を中心とする財政改革は、一定の成果はあったが社会の変化に十分には対応できなかったことを理解できる。 (2)農民の間に格差が生まれた理由を、商品作物と貨幣経済の広まりに着目して考えることができる。	①徳川吉宗の享保の改革は、政治面ではしきたりにとらわれない新しい制度を導入したが、財政面では年貢米を増やそうとする従来型の改革であったことを理解している。 ②本時の学習課題について、貨幣経済の広まりによる社会の変化に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
2 年 2 学期	2 繰り返される要求と改革 ◎百姓の要求と財政難に対して、幕府はどのような対応を行ったのだろうか。	(1)田沼意次は貨幣経済の発達に対応した政治を目指したことを理解し、それが挫折した背景を考察できる。 (2)寛政の改革は、農業を重視した従来型の政策であったことを理解できる。	①百姓一揆や打ちこわしがどのようなことを背景として起こり、何を要求した運動だったのかを理解している。 ②本時の学習課題について、田沼意次と松平定信の政策の違いに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
2 年 2 学期	3 江戸の庶民が担った化政文化 ◎江戸時代後半には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ なぜ幕府はさまざまな改革を行ったのだろうか。	(1)文化・文政期、江戸を中心に多彩で娯楽性に富んだ町人文化が栄えたことを理解できる。 (2)国学や蘭学などの新しい学問や教育の広がり社会に与えた影響について考察できる。	①文化・文政期に江戸の庶民を中心に、歌舞伎、浮世絵、小説、川柳、狂歌など、多様な娯楽や文化が栄えたことを理解している。 ①国学や蘭学など新しい学問が発達し、寺子屋、藩校、私塾などさまざまな教育機関がつけられたことを理解している。 ②本時の学習課題について、元禄文化との違いや時代背景に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③ワクチン接種の始まりなどに着目して、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対して関心を高めている。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
2 年 2 学期	章の学習を振り返ろう 武家政権の展開と世界の動き ■章の問い■ 全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか。	(1)全国を統一する政権の誕生によって、社会がどのように変化したのかを考えて発表し、意見交換を行うことができる。 (2)近世とはどのような時代か、自分の言葉で表現したり、意見交換を行ったりすることができる。	①「全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか」という「章の問い」について、第4章の学習で獲得した知識を活用して、歴史的事実や変化の時系列を効果的にまとめている。 ②「全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか」という「章の問い」について、農具や農作物の違いや武器を持つ人々が変化した背景に着目するなどして、多面的・多角的に考察し、近世の特色を適切に表現している。 ③第4章における自身の学習の経緯について振り返り、学習の方法や留意点について自身の学びを確認、調整しようとしている。

第5章 近代前半 近代国家の歩みと国際社会(計24時間) ■章の問い■ 近代国家の建設を目指すことによって、社会はどのように変化したのだろうか。		(1)次のような知識を身につけることができる。 （ア）欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き、 （イ）明治維新と近代国家の形成、（ウ）議会政治の始まりと国際社会との関わり、（エ）近代産業の発展と近代文化の形成 (2)次のような思考力、判断力、表現力などを身につけることができる。 （ア）工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、(1)の（ア）から（エ）までについて近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現できる。 （イ）近代（前半）の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現できる。	①欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどをもとに、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。 ①開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などをもとに、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解している。 ①自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などをもとに、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、日本の国際的な地位が向上したことを理解している。 ①日本の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などをもとに、日本で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。 ②工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響、世界の動きと日本との関連などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ②近代前半の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③近代前半の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野に「近代国家の建設を目指すことによって、社会はどのように変化したのだろうか」という「章の問い」を主体的に追究しようとしている。
第1節 欧米諸国における近代化(計5時間) ◇節の問い◇ 欧米諸国から始まった近代化とは、どのような変化なのだろうか。		(1)政治体制の変化や人権思想の発達や広がり、現代の政治とのつながりなどと関連づけながら、アメリカの独立やフランス革命における政治的な対立と社会の混乱、そこで生じた犠牲などを経て近代民主政治への動きが生まれたことを理解できる。 (2)工業化による社会の変化という観点で、イギリスの産業革命の結果、資本主義社会が成立したことと、労働問題・社会問題が発生したことを考察できる。 (3)産業革命の進展に伴って、欧米諸国が新たな工業製品の市場や工業原料の供給地を求めてアジアへの進出を強めたことを理解できる。	①欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどをもとに、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②工業化の進展とそれに伴う政治や社会の変化に着目して、近代化により欧米諸国の政治や社会がどのように変化したかを、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③欧米諸国における近代化の成立とアジア諸国の動きについて、「章の問い」と関連づけながら「欧米諸国から始まった近代化とは、どのような変化なのだろうか」という「節の問い」を、主体的に追究しようとしている。
2 年 2 学期	章の導入 ■章の問い■ 近代国家の建設を目指すことによって、社会はどのように変化したのだろうか。	(1)これから学習する近代前半（江戸時代末期～明治時代）がどのような時代であったのか、小学校で学んだ人物・出来事を振り返りながら、周りの生徒との対話を通じて自分なりの予想を立てることができる。	①小学校での学習などをもとに、近代前半に該当する時代を把握し、小学校で学習した歴史上の人物や出来事を想起できている。 ②前の章での学習などをもとに、近代前半では前の時代からどのように社会が変化するか予想し、表現している。 ③「近代国家の建設を目指すことによって、社会はどのように変化したのだろうか」という「章の問い」に対する学習の見通しを立て、学習を通して近代前半の特色を明らかにしようとしている。
2 年 2 学期	1 市民革命の始まり ◎イギリスの革命や、アメリカの独立戦争によって、政治のあり方はどのように変化したのだろうか。	(1)イギリスでは市民革命を通じて立憲君主政と議会政治が確立されたことを理解し、その意義を考えることができる。 (2)アメリカ独立戦争が起こった背景を理解し、独立宣言が出された意義を考えることができる。	①イギリスでは、市民革命を通じて、立憲君主政と議会政治が確立したことを理解している。 ①アメリカ独立戦争が起こった背景と代表制に基づく共和政が確立したことを理解している。 ②本時の学習課題について、イギリスの革命やアメリカの独立戦争の背景に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。

2 年 2 学期	2 人権思想からフランス革命へ ◎フランス革命によって、政治や社会はどのように変化したのだろうか。	(1)フランスで人民主権と基本的人権の尊重が確立していく経緯を、フランス革命を通して理解できる。 (2)ナポレオンの登場が、ヨーロッパ諸国や世界に与えた影響について考えることができる。	①フランスで人民主権と基本的人権の尊重が確立していった経緯を、人権宣言から読み取っている。 ②本時の学習課題について、人権宣言やナポレオンの政策に着目し、資料を活用しながらその意義を考察し、適切に表現している。
2 年 2 学期	3 産業革命と資本主義の成立 ◎産業革命によって、社会はどのように変化したのだろうか。	(1)産業革命が起こった背景と社会の変化を理解し、現代社会との関わりが深いことに気づくことができる。 (2)社会主義の考えが唱えられた理由を、資本主義の問題点から考えることができる。	①産業革命による社会の変化と人々の生活への影響を理解し、資本主義の意義と問題点を資料から読み取っている。 ②本時の学習課題について、資本主義や社会主義の考え方に着目し、資料を活用しながら社会の変化を考察し、適切に表現している。 ③工業の発達と生活環境の悪化について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対して関心を高めている。
2 年 2 学期	世界とのつながりを考えよう イラスト編② 産業革命期のイギリス	(1)明治時代の産業や文化、現在の生活や暮らしと関連づけながら、当時の日本と世界とのつながりについて多面的・多角的に考察し、近現代の特色を世界の動きとの関わりの中で理解することの大切さに気づく。	①産業革命期のイギリスの想像図から、現在の生活に影響を与えているものを読み取っている。 ②近世までの日本との差異に着目し、これまでの学習内容も生かしながら、現在の生活や暮らしに影響を与えたもの多面的・多角的に考察し、表現している。 ③産業革命期のイギリスの想像図から世界と日本との関わりについて関心を高め、これからの学習に生かそうとしている。
2 年 2 学期	4 欧米諸国の近代国家建設 ◎アメリカ・ドイツ・ロシアは、どのように近代国家の建設を進めたのだろうか。	(1)アメリカ合衆国の領土拡大の経緯と、南北戦争が起こった背景を理解できる。 (2)ドイツとロシアの近代化の特色を理解できる。	①アメリカ合衆国の領土拡大の経緯を読み取り、南北戦争が起こった背景を貿易や奴隷制に着目して理解している。 ①市民革命が起こらなかったドイツとロシアの近代化の特色を理解している。 ②本時の学習課題について、アメリカ・ドイツ・ロシアが進めた近代化政策の違いと共通点に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③19世紀半ばに出版された『アンクル=トムの小屋』のコラムから、よりよい社会の実現を視野に、近代国家にみられる課題に対して関心を高めている。
2 年 2 学期	5 世界進出を目指す欧米諸国 ◎なぜ、欧米諸国は世界各地に植民地を広げていったのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 欧米諸国から始まった近代化とは、どのような変化なのだろうか。	(1)産業革命後、欧米諸国は原料と市場を求めて世界へ進出していったことを理解できる。 (2)欧米諸国の世界進出が、アジア・アフリカの経済や政治に与えた影響を考えることができる。	①イギリスが世界へ進出できた要因を、産業革命との関わりから理解している。 ①インド大反乱が起こった理由を、資料から読み取っている。 ②本時の学習課題について、イギリスなど欧米諸国が工業製品を大量に生産できた条件に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③植民地の拡大とそれを可能にした要因の一つとしての医薬品の開発、世界各地に広まった人権思想・民族意識について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対して関心を高めている。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。

第2節 開国と幕府の終わり(計4時間)		(1)欧米諸国のアジア進出と関連づけて、アヘン戦争後に幕府が対外政策を転換して開国したことと、その政治的および社会的な影響が明治維新の動きを生み出したことに気づくことができる。	①欧米諸国のアジア進出に対する清の動き、開国とその影響をもとに、開国によって引き起こされた政治的、社会的な変革によって江戸幕府が滅亡したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②工業化の進展とそれに伴う政治や社会の変化に着目して、欧米諸国の東アジアへの進出が日本の政治や社会に与えた影響を、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③日本を取り巻く世界情勢の変化、開国とその影響について、「章の問い」と関連づけながら「欧米諸国が来航するなかで、日本の社会はどのように変化したのだろうか」という「節の問い」を、主体的に追究しようとしている。
◇節の問い◇ 欧米諸国が来航するなかで、日本の社会はどのように変化したのだろうか。			
2年2学期	1 日本を取り巻く世界情勢の変化 ◎欧米諸国の来航は、東アジアにどのような影響を与えたのだろうか。	(1)外国船の来航に対する幕府の対応が、異国船打払令から薪水給与令に変化した理由を理解できる。 (2)アヘン戦争が起こった理由を理解し、アヘン戦争が清や日本に与えた影響を考察できる。	①外国船の来航に対する幕府の対応が変化した理由を理解している。 ①アヘン戦争が起こった理由を理解している。 ②本時の学習課題について、アヘン戦争の影響に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
2年2学期	2 諸藩の改革と幕府の衰退 ◎幕府が衰退したのは、どのような要因があったのだろうか。	(1)薩摩藩や長州藩、佐賀藩の財政改革の特色を理解し、改革に成功した理由を考察できる。 (2)大塩平八郎の乱や天保の改革の失敗を通じて、幕府政治が動揺して衰退していくことを理解できる。	①薩摩藩や長州藩、佐賀藩の財政改革の特色を理解している。 ①工場制手工業のしくみが、近代産業の基礎となったことを理解している。 ②本時の学習課題について、諸藩の改革と幕府の改革との違いに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③諸藩の改革や渋染一揆の成果について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対して関心を高めている。
2年2学期	3 黒船来航の衝撃と開国 ◎開国は、日本の社会にどのような影響を与えたのだろうか。	(1)黒船来航の背景を理解し、日米和親条約と日米修好通商条約が結ばれたことの意味を理解できる。 (2)開国と貿易の拡大が、日本の経済や社会に与えた影響を考察することができる。	①世界進出に後れをとったアメリカが、日本の開国を強く求めたことを理解している。 ①日米修好通商条約の不平等な側面を理解している。 ②本時の学習課題について、政治と経済の両面に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
2年2学期	4 江戸幕府の滅亡 ◎江戸幕府は、どのようにして倒れていったのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 欧米諸国が来航するなかで、日本の社会はどのように変化したのだろうか。	(1)薩摩藩と長州藩が、攘夷から倒幕へと考えを変えた理由を考察できる。 (2)大政奉還により江戸幕府が滅亡し、王政復古の大号令により天皇を中心とする新政府の成立が宣言されたことを理解できる。	①大政奉還が行われ、王政復古の大号令が出されたことの意味を理解している。 ②本時の学習課題について、倒幕を進めた勢力と幕府の動きの両面に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。

	第3節 明治政府による近代化の始まり(計3時間) ◇節の問い◇ 明治政府は、どのように国づくりを進めたのだろうか。	(1)明治維新について、複雑な国際情勢のなかで独立を保ち、近代国家を形成していった政府や人々の努力に気づくことができる。 (2)富国強兵・殖産興業政策のもとに新政府が行った、廃藩置県、学制・兵制・税制の改革、身分制度の廃止、領土の画定を取り上げ、学制など今日につながる諸制度がつくられたことや、身分制度の廃止にもかかわらず現実には差別が残ったことについて考察できる。 (3)欧米諸国から取り入れた制度や文化の影響で、社会の様子や人々の生活が大きく変化したこと気づくことができる。	①富国強兵や殖産興業の政策、「文明開化」の風潮などをもとに、明治維新によって近代国家の基礎が整えられ、人々の生活が大きく変化したことを理解するとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②明治政府の諸改革の目的に着目して、それらが社会や人々の生活に与えた影響について考察できる。また、近世の政治や社会との違いに着目しながら、事象を相互に関連づけるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③明治維新と近代国家の形成について、「章の問い」と関連づけながら「明治政府は、どのように国づくりを進めたのだろうか」という「節の問い」を、主体的に追究しようとしている。
2年3学期	タイムトラベル⑨ 明治時代を眺めてみよう 1880～90年代のある場面	(1)明治時代のある養蚕業が盛んな地方都市の様子を描いた想像図を見て、江戸時代と比べて、どのような点が変化しているのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定できる。	①小学校の学習を踏まえて、「タイムトラベル」の想像図から、明治時代の建物の様子や人々の服装などを読み取っている。 ②江戸時代と明治時代の違い、外国（列強諸国）とのつながりに着目し、「タイムトラベル」の想像図に描かれている事象を相互に関連づけるなどして、時代の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③「タイムトラベル」の想像図から、明治時代の特色を明らかにするための課題を見だし、「問い」を立てて主体的に追究しようとしている。
2年3学期	1 新政府による改革 ◎新政府は、どのような国づくりを目指したのだろうか。	(1)五箇条の御誓文から、新しい政治の方針を読み取り、どのような改革が行われたか理解できる。 (2)明治政府の政策を通し、新政府の改革が何を目指して行われたのかを考察できる。	①五箇条の御誓文によって新政府の方針が示されたが、実際には藩閥政治が行われたことを理解している。 ①版籍奉還と廃藩置県により幕府と藩という支配の二重構造が廃され、新政府による中央集権の確立が目指されたことを理解している。 ②本時の学習課題について、江戸時代との違いに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③よりよい社会の実現を視野に、「解放令」後も続いた差別と、差別からの解放運動に対して関心を高めている。
2年3学期	2 富国強兵を目指して ◎日本を欧米諸国に並ぶ強い国にするため、どのような政策が行われたのだろうか。	(1)官営工場の設立や通信・交通の近代化、徴兵令、地租改正など、富国強兵を目指してさまざまな政策が行われたことを理解できる。 (2)富国強兵を目指して行われた政策や制度が、社会や人々の生活に与えた影響を考察できる。	①徴兵令や帯刀の禁止、俸禄の廃止などの改革は、士族の特権を奪い、士族の新政府への不満を高めたことを理解している。 ②本時の学習課題について、「富国」を目指した殖産興業、「強兵」を目指した徴兵令、そしてそれらを実現するための安定した財源の確保としての地租改正に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
2年3学期	3 文明開化と新政府の政策 ◎新政府が進めた新しい政策や欧米の文化を、人々はどのように受け止めたのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 明治政府は、どのように国づくりを進めたのだろうか。	(1)「文明開化」が進み、欧米の文化や生活様式が広まり、教育の近代化が進められたことを理解できる。 (2)新政府の政策に反対する動きが各地で起こった理由を、国民の負担に着目して考察できる。	①「富国強兵」と近代化を実現させるためには、国民の知識を高め、人材を育てることが必要だったことを理解している。 ②本時の学習課題について、「血税一揆」や士族反乱などが起こった背景に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。

第4節 近代国家への歩み(計4時間) ◇節の問い◇ 日本の近代国家建設は、どのような成果と課題を生んだのだろうか。		(1)自由民権運動の全国的な広まり、政党の結成、憲法の制定過程とその内容の特徴を取り上げ、大日本帝国憲法の制定によって当時アジアで唯一の立憲制の国家が成立したことを踏まえ、立憲政治・議会政治が始まったことの歴史上の意義や、現代の政治とのつながりに気づき、考察することができる。	①新政府による外交、自由民権運動、大日本帝国憲法に着目し、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②大日本帝国憲法と帝国議会の成立過程に着目して、外国との関係や現代の政治とのつながりを、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③議会政治の始まりについて、「章の問い」と関連づけながら「日本の近代国家建設は、どのような成果と課題を生んだのだろうか」という「節の問い」を、主体的に追究しようとしている。
2 年 3 学期	1 新たな外交と国境の画定 ◎新政府は近代国家をつくるために、どのような外交政策を進めていったのだろうか。	(1)新政府が岩倉使節団を派遣した目的やその成果を理解し、その後の外交政策や産業の発展に与えた影響について理解できる。 (2)新政府が国境を画定した経緯とその課題について、主体的に追究できる。	①新政府が岩倉使節団を派遣した目的とその成果を、欧米諸国との不平等条約と留学生の同行に着目して理解している。 ①新政府が国境を画定していった理由を、近代国家の特徴を踏まえて理解している。 ②本時の学習課題について、欧米諸国、中国、朝鮮との領事裁判権の取り扱いに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
2 年 3 学期	2 沖縄・北海道と近代化の波 ◎新政府は近代国家をつくるために、沖縄や北海道に対してどのような政策を進めたのだろうか。	(1)沖縄や北海道が日本の統治下に置かれ、近代化が推し進められていく過程を理解できる。 (2)新政府が沖縄と北海道を日本の統治下に置こうとした理由を、近隣諸国との関係から考えることができる。	①琉球が沖縄県として日本の統治下に置かれた過程を、薩摩藩の支配や琉球と清の歴史的な関係の変遷から理解している。 ①新政府が北海道の本格的な統治と開拓を進めた理由を、ロシアに対する北方の防備と士族の救済という視点に着目して理解している。 ②本時の学習課題について、沖縄の人々やアイヌ民族の生活や文化の変化に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
2 年 3 学期	3 自由と民権を求めて ◎政府に不満をもつ人々はどのような活動を行い、それに対して政府はどのように対応したのだろうか。	(1)西南戦争後、新政府への抵抗が武力から言論に変化し、自由民権運動が広がっていったことを理解できる。 (2)自由民権運動の広がりが国会の開設や憲法の制定に与えた影響とその課題を考えることができる。	①板垣退助など自由民権運動の活動家たちが、国会開設の過程において、それぞれがどのような行動をとったのかを読み取り理解している。 ②本時の学習課題について、自由民権運動の発展と衰退に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
2 年 3 学期	4 帝国憲法の成果と課題 ◎大日本帝国憲法の成立によって、政治や社会はどのように変化したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 日本の近代国家の建設は、どのような成果と課題を生んだのだろうか。	(1)大日本帝国憲法のおおまかな特色を理解し、その成果と課題を考えることができる。 (2)帝国議会のしくみや明治時代の選挙のしくみを現在と比較し、それぞれの特色を理解できる。 (3)民法にみる「家制度」や女性の権利に関する課題を、主体的に追究できる。	①大日本帝国憲法における天皇と国民の立場や権利を条文から適切に読み取り、理解している。 ①帝国議会や選挙のしくみの主な点について、現在との違いを理解している。 ②本時の学習課題について、天皇や議会の権限、国民の参政権に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③日本での選挙の始まりについて、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対して関心を高めている。

第5節 帝国主義と日本(計4時間)		(1)国内の社会状況や国際情勢との関わりなどの背景を踏まえて、欧米諸国と対等な外交関係を樹立するための長年の努力によって、条約改正が実現したことを理解できる。 (2)大陸との関係を踏まえて、日清・日露戦争に至るまでの日本の動き、戦争のあらましと国内外の反応などを取り上げ、日本の国際的地位が向上したことを理解できる。	①日清・日露戦争での勝利や不平等条約の改正などをもとに、日本の国際的地位が向上したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②外交の展開に着目して、日清・日露戦争が国内外に与えた影響について事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③国際社会との関わりについて、「章の問い」と関連づけながら「なぜ日本は不平等条約を改正することができたのだろうか」という「節の問い」を、主体的に追究しようとしている。
2年3学期	1 アジアの列強を目指して ◎明治政府は条約改正に向けて、どのような取り組みを行ったのだろうか。	(1)帝国主義の意味と、イギリス・ロシアの世界進出およびその対立の過程を理解できる。 (2)条約改正の経過を理解し、領事裁判権を撤廃することができた理由を、明治政府の国内での取り組みと世界情勢の変化から考えることができる。	①列強が積極的に海外に進出し、植民地支配を広げた理由を理解している。 ①帝国主義を進めるイギリスとロシアは、東アジアでも対立を深めていたことや、この対立を背景に領事裁判権が撤廃できたことを理解している。 ②本時の学習課題について、当時の世界情勢に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
2年3学期	2 朝鮮をめぐる対立 日清戦争 ◎日清戦争の結果、国内や東アジアではどのような変化が起こったのだろうか。	(1)朝鮮をめぐる日本と清との対立から日清戦争が始まったことを理解できる。 (2)日清戦争後、日本・中国・朝鮮の関係がどのように変化していったか考えることができる。	①日清戦争が起こった背景を、朝鮮国内の分裂を利用しようとした日本と清の対立から理解している。 ②本時の学習課題について、政府と政党の関係や日本・清・朝鮮の関係に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
2年3学期	3 世界が注目した日露戦争 ◎日露戦争によって、日本国内の状況や外国との関係はどのように変化したのだろうか。	(1)日露戦争が起こった理由を、世界の動きや日本国内の情勢から理解できる。 (2)日露戦争が、その後の日本社会や世界に与えた影響と変化について考えることができる。	①日露戦争が起こった背景を、中国に進出しようとする日本とロシアの対立から理解している。 ②本時の学習課題について、戦果に対する国民の関心の高さやアメリカやイギリスとの関係の変化に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
2年3学期	4 塗り替えられたアジアの地図 ◎日清・日露戦争の後、朝鮮・中国ではどのような変化がみられたのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ なぜ日本は不平等条約を改正することができたのだろうか。	(1)日露戦争後、日本はアジアへ進出する立場に変化していったことを考察できる。 (2)中国では、辛亥革命によりアジアで最初の共和政が確立されたことを理解できる。	①中国では、辛亥革命により中華民国が成立し、アジアで最初の共和政が確立されたことを理解している。 ②本時の学習課題について、朝鮮半島や満州での日本の政策に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③よりよい社会の実現を視野に、日本に亡命した孫文と神戸とのかかわりについて、関心を高めている。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。

第6節 アジアの強国の光と影(計3時間)		(1)富国強兵・殖産興業政策のもと、製糸業、紡績業や鉄鋼業などの近代産業が日清戦争前後から飛躍的に発展して、資本主義経済の基礎が固まったこと、都市や農山漁村の生活に大きな変化が生じたことに気づき、まとめることができる。 (2)近代化遺産を取り上げながら、鉄道網の広がりや工業の発達などによって人々の生活の変化がみられた一方で、労働問題や社会問題が発生したことを理解できる。 (3)伝統的な文化のうに欧米文化を受容して、日本の近代文化が形成されたことを理解できる。	①日本の産業革命と国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などをもとに、日本で近代産業が発達し、近代文化が形成されたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②近代化がもたらした文化への影響などに着目して、工業化の進展が国民生活や文化に与えた影響について、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③近代産業の発達と近代文化の形成について、「章の問い」と関連づけながら「なぜ、近代化によって人々の生活が大きく変化したのだろうか」という「節の問い」を、主体的に追究しようとしている。
2年3学期	1 近代日本を支えた糸と鉄 ◎日本の軽工業や重工業は、どのように発展していったのだろうか。	(1)日本の産業革命は、紡績業や製糸業などの軽工業から、鉄鋼や戦艦などの重工業へと発展していったことを理解できる。 (2)軽工業と重工業の発展が日本の経済と産業に与えた影響を、輸出の増大や軍需産業と鉄道の発達、財閥の登場などに着目して考えることができる。	①近代日本の工業が、軽工業から重工業に転換していった過程を、鉄道の発達や日清・日露戦争との関わりから理解している。 ②本時の学習課題について、日清・日露戦争との関係に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
2年3学期	2 変わる都市と農村 ◎工業化の進展は、人々の生活にどのような影響を与えたのだろうか。	(1)日露戦争の結果、日本は「列強」意識をもつようになった一方で、国民の生活は向上せず貧富の差が広がったことを理解できる。 (2)工業化の進展が人々の生活に与えた影響を、労働問題や社会主義運動の高まり、公害の発生などに着目して考察し、社会の課題について主体的に追究できる。	①「列強への仲間入り」をした意識が高まる一方で、農村では小作農の増加し、また工業化の発展に伴う社会問題や社会主義運動が起きたことを理解している。 ②本時の学習課題について、農村や都市の生活の変化に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③足尾鉍毒事件について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対して関心を高めている。
2年3学期	3 欧米の影響を受けた近代文化 ◎明治時代には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ なぜ、近代化によって人々の生活が大きく変化したのだろうか。	(1)欧米の文化の影響を受けて、新しい文化が形成されたことを理解できる。 (2)学校教育が近代化に果たした役割を考え、その成果と課題を主体的に追究することができる。	①日本の伝統文化に欧米文化が取り入れられ、近代文化が形成されたことを理解している。 ②本時の学習課題について、学校教育が果たした役割に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③明治三陸大津波と義援金、島崎藤村の文学、衛生政策の始まりについて、よりよい社会の実現を視野に入れながら関心を高めている。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
2年3学期	章の学習を振り返ろう 近代国家の歩みと国際社会 ■章の問い■ 近代国家の建設を目指すことによって、社会はどのように変化したのだろうか。	(1)日本の「近代化」を観点ごとに評価し、最も重視したい観点を選んでその理由を説明することができる。 (2)近代前半とはどのような時代か、自分の言葉で表現したり、意見交換を行ったりすることができる。	①「近代国家の建設を目指すことによって、社会はどのように変化したのだろうか」という「章の問い」について、第5章の学習で獲得した知識を活用して、自分の考えをまとめている。 ②「近代国家の建設を目指すことによって、社会はどのように変化したのだろうか」という「章の問い」について、戦いの役割を担う人の移り変わりや近い時期のイギリスとの共通点に着目するなどして、多面的・多角的に考察し、近代前半の特色を適切に表現するとともに、現在とのつながりについて考察している。 ③第5章における自身の学習の経緯について振り返り、学習の方法や留意点について自身の学びを確認、調整しようとしている。